

小 論 文

注 意

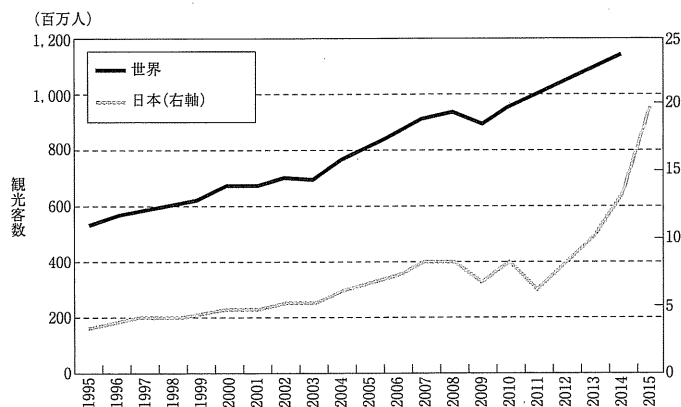
1. 問題は全部で5ページである。
2. 解答用紙に氏名・受験番号を忘れずに記入すること。
3. 解答はすべて解答用紙に記入すること。
4. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけない。
5. 解答用紙は必ず提出のこと。この問題冊子は提出する必要はない。

I 以下の文章と図表から、訪日観光客の特徴を読み取り、それを小論文解答用紙(その1)に日本語でまとめなさい。

中国をはじめとする新興国の経済成長によって、世界全体の観光客数は毎年5,000万人弱ほど増加しており、2015年には11億8千万人を突破した(図表1)。年々増加する観光客を国内に呼び込み、消費に繋げるために各国では様々な施策を行っており、例えばタイではプロモーション等の各種施策を行うことにより約10年間で観光収入が約5倍となった。

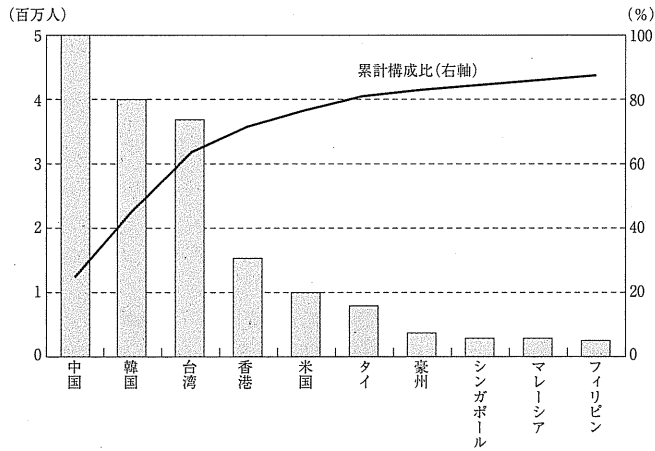
他の国に目を向けても、観光客数と観光収入が増加しており、特に観光収入が世界一である米国は2003年(1,015億ドル)から2013年(2,148億ドル)の10年間で観光収入が2倍近くになっている。フランスに関しても年間観光客数は自国民数以上となっており、各国において観光は重要な産業の一つとなっている。

図表1 世界全体の観光客数推移



資料: World Tourism Organization (UNWTO), 日本政府観光局資料から作成。

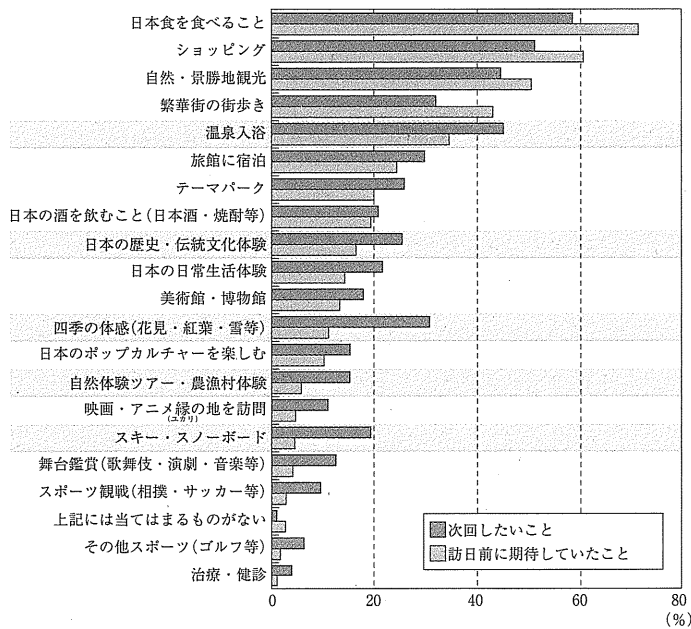
図表2 訪日外国人観光客の出身国構成



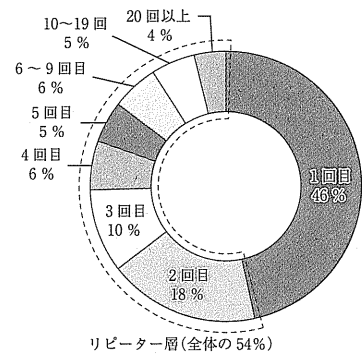
資料：日本政府観光局「国籍/月別 訪日外客者数(2015)」から作成

図表3 訪日観光客による訪日前後の期待の変化と訪日回数別割合

訪日観光客による訪日前後の期待の変化

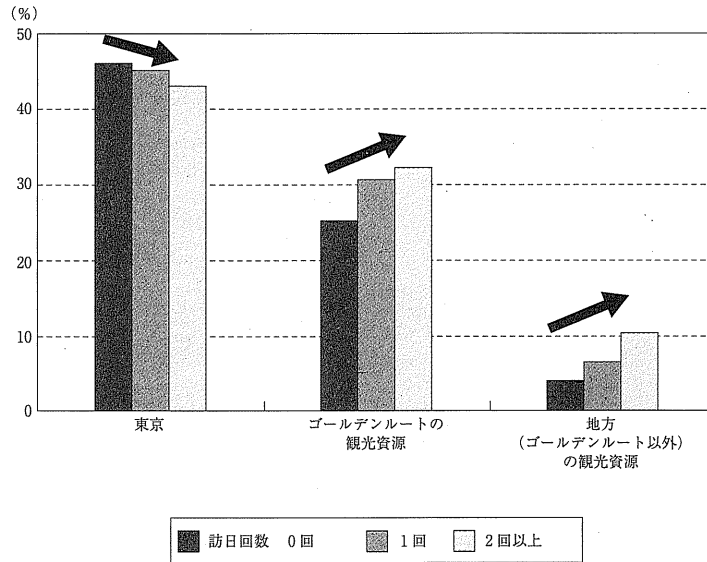


訪日観光客の訪問回数別割合



備考：「訪日前に期待していたこと」と「次回したいこと」の差が大きい上位5つを網掛け
 資料：訪日外国人消費動向調査(2015年年間値)

図表4 東京と地方との訪問意欲推移



備考：ここでのゴールデンルートとは、東京-大阪間を周遊する日本旅行の定番コース(東京、富士山、箱根、名古屋、京都、大阪など)を指す。(日本政策投資銀行・日本交通公社資料より)
 資料：観光庁「訪日外国人消費動向調査2014」、日本政策投資銀行・日本交通公社「アジア8地域・訪日外国人旅行者の意向調査(平成27年版)」から作成

- II 次のフランスの事例を参考に、訪日観光客の特徴を踏まえ、我が国が観光客のリピーターを増やしていくための方策を小論文解答用紙(その1)に日本語で論じなさい。

フランスの事例

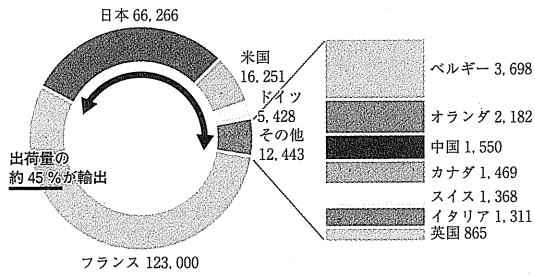
フランスは各地方において各種の体験型観光が行われており、各地域がそれぞれの特産品を活用して観光客のリピーター化を図っている。

ボージョレーヌーヴォーで有名なボージョレー地方では、「毎年11月の第3木曜日午前0時に解禁になる」というストーリーとともにワインを売り出すことによって消費者の関心を喚起し、観光客を呼び込むとともに、一度来た観光客を体験型観光によってリピーターに繋げる施策を行っている。実際にボージョレーワイン解禁のタイミングで毎年行われる「サルマンテル祭」では、世界各国からボージョレーワインの愛好家が集まり、人で賑わうイベントとなっている。そのほか、フランス政府はワインテイastingやワインの収穫体験などが行えるワインセラーに対してワインツーリズムの認証を行っており、ボージョレーでは200件近いワインセラーがこの認証を受けている。

このような海外旅行者へのPRの影響もあり、ボージョレーヌーヴォーは出荷量の約45%が海外へ輸出されている(図表1)。

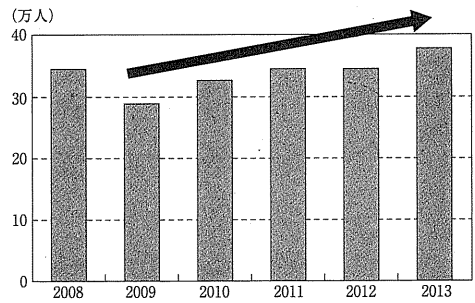
体験型観光以外の取組で言えば、高級ワインの産地であるボルドーでは観光客の呼び込みのために、市の中心街の修繕・改善を行い、2009年に元ワイン貯蔵庫を改造して作った「ワインとネゴシアン博物館」を開設するなどのインバウンド対応を行った結果、ボルドーのあるGironde県における観光客数は2009年以降増加傾向にある(図表2)。

図表1 ポージョレーヌーヴォーの
国別出荷量



備考：単位は100リットル。
資料：Inter beaujolais ウェブサイトから作成。

図表2 Gironde 県の外国人観光客数



資料：DGE France ウェブサイトから作成。

出典：問題Ⅰ，Ⅱは経済産業省(2016)「第Ⅱ部 第2章 第2節 観光の現状と付加価値を上げていくための今後の課題」『平成28年版通商白書』平成28年6月21日より抜粋，一部改変

